

検索技術で情報リテラシーを高める

白井千晶 大学非常勤講師(社会学)/REBORN

1 情報リテラシーとは何か

情報リテラシーという言葉を知っていますか？ 情報リテラシーとは、たくさんの中から必要な情報をいち早く探し出し、それを読み解き、取捨選択し、活用する能力のことをいいます。昨今、インターネットによって情報量が莫大に増え、ただ手近の情報を受け取っているだけでは、自分にとってもっとも「有用」な情報に出会うことができなくなっているといえます。

「ほしい情報が見つからない」「時間がかかる」「インターネットなんてニアミスの情報ばかり」「どうやって探せばいいのかわからなくてコンピュータの前で固まってしまう」というのは、コンピュータ技術(コンピュータを操作する能力:コンピュータ・リテラシー)の問題というよりは、情報リテラシーが低いからかもしれません。今やコンピュータを開けてほしい情報を獲得することは、情報リテラシーという「能力」の一つだとされています。実際、大学教育の場でも、「コンピュータ実習」といった情報機器操作のハウツーの授業から、より包括的なリテラシー教育へと移行してきました¹⁾。

本稿では、できるだけ時間をかけずに、求めている情報により近いものを獲得できる技術の一つ、検索技術をご紹介します。検索技術を我がものにして、情報の海をすいすい泳ぎましょう！

2 情報検索のワザ

例えば広辞苑で「助産師」(実際は広辞苑5版では助産婦)とひくと、「分娩を助け、また妊婦・褥婦・新生児の保健指導を職業とする女性・・・」とあります。「当たり」は一つです。これをインターネットの検索、例えば一般的な検索サイト、ヤフー(<http://www.yahoo.co.jp/>)で検索してみると、カテゴリの一致が1件、登録サイトの一致が14件、ページとの一致はなんと約16,300件(2003年2月22日現在、以下すべてサイトに関する情報は同)もあります。もうおわかりのように、情報検索の世界では「当たり」は一つではありません。そこが情報検索の難しさであり、醍醐味でもあります。

当たり前のように思えることですが、情報検索のワザは初心に返って次の2つです。

1) 調べる目的を明確にする。

例えば、他の病院、クリニック、助産院はどんなサイトを作っているのか参考にしたいならサイト検索が適当でしょう。自宅出産した人の体験記を探しているならば、ページ検索が適当でしょう。用語を調べたいなら、延々とその用語でページ検索をするよりは、用語集が充実しているサイトを探した方がいいかもしれません。図書を探しているときは、サイト検索やページ検索をしないで、図書館のオンライン検索(なんとこれも家にいながらにしてインターネットでできます)や書店や出版社のオンライン検索の方がすぐに図書が見つかります。なぜ、どんな情報が必要なのかによって、どの検索技術を使うかが異なってきます。

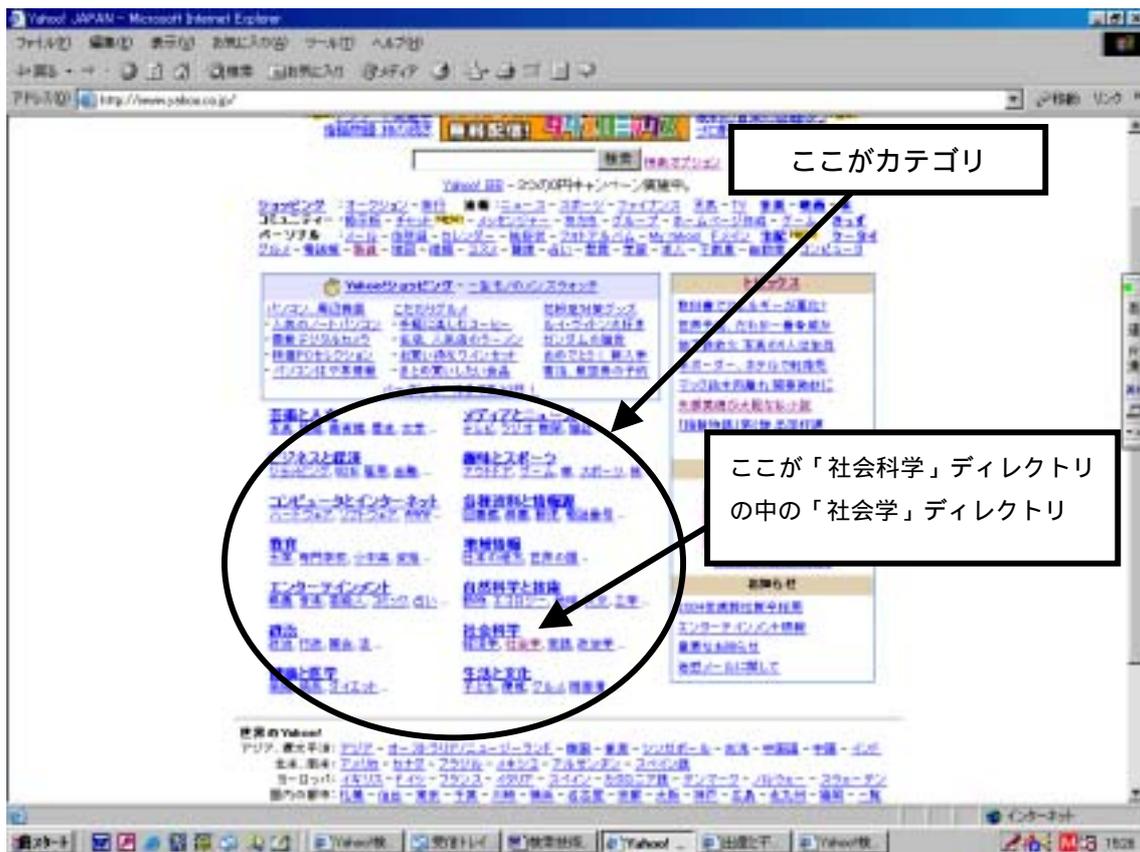
2) ページ作成者・サイト内容の種類に見当をつける。

上とも関連することですが、サイトの作成者の種類で探す情報の見当をつけるるとほしい情報にすぐにアクセスできることがあります。例えば「不妊」について調べたいとき、不妊に関する図書なら書店のサイト、最新の技術についてであれば学会や協会、病医院のサイトあるいは研究者のサイト、論文検索であればMEDLINEなど論文検索サイト、当事者についてであれば、当事者が運営しているサイトや掲示板を解放している団体、などです。検索サイトでむやみに「不妊」とキーワードを打って、ヒットしたページを片っ端からクリックしているようでは、情報の海でおぼれてしまうか、泳ぐのが嫌いになってしまうでしょう。以下では、(a) カテゴリ検索、サイト検索、ページ検索、(b) 書籍検索、(c) 図書の所在検索、(d) 事典的・辞書の機能をもったサイトの活用、(e) 新聞記事検索などに分けて検索技術を具体的に紹介します。

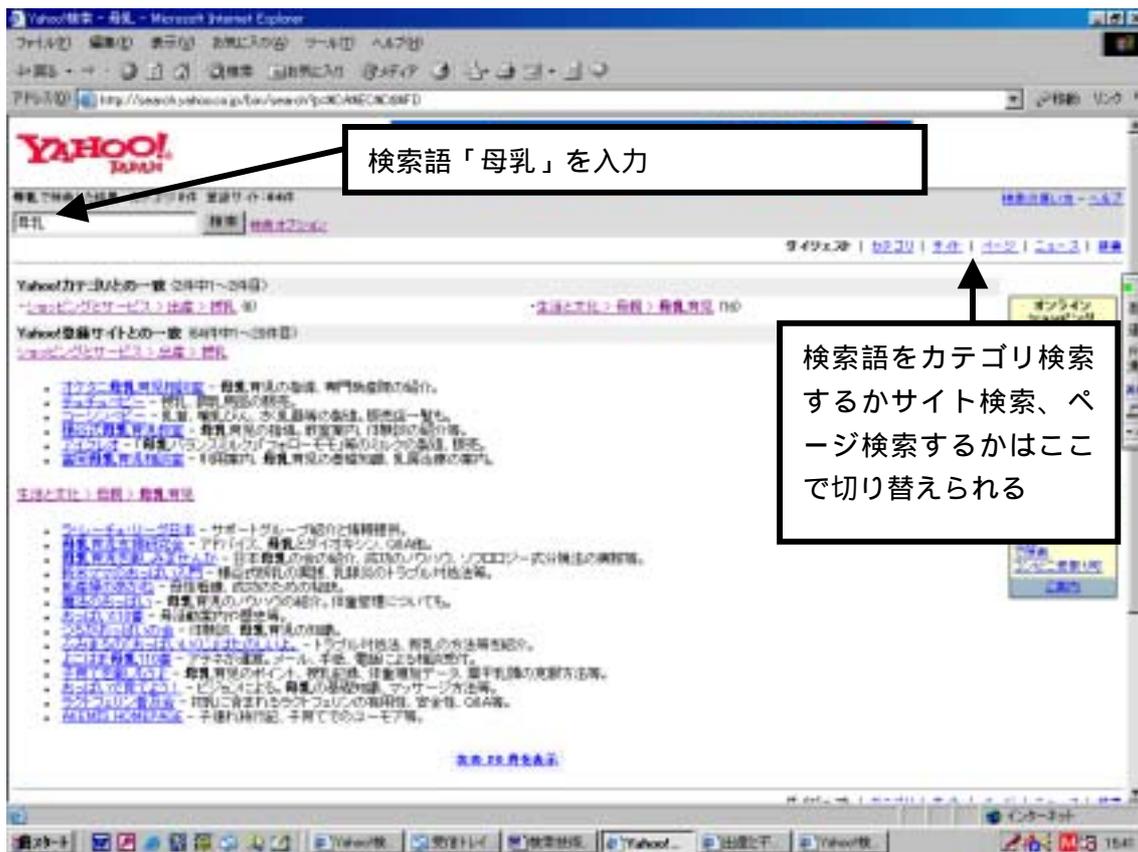
3 カテゴリ検索・サイト検索・ページ検索

検索エンジンでよく目にするカテゴリ検索、サイト検索、ページ検索という用語を知っていますか？ これを知っていると、どのような条件で検索結果が出たのかを理解することができます。ヤフーを例に説明しましょう。カテゴリ検索とは、ヤフーがあらかじめ設定したディレクトリの中で、関連しているカテゴリが表示されます(下記参照)。例えば筆者のHP(出産と不妊の社会学 <http://homepage2.nifty.com/~shirai/>)は社会科学のディレクトリの中の(これを>で表すのが通常です)、さらに社会学というディレクトリに登録しているので(社会科学>社会学)、そのカテゴリをクリックすると筆者のHPがリストの中にできます。

だから、例えば産婦人科の病医院がどのようなサイトを作成しているか閲覧したいときは、図1のヤフーのトップページから健康と医学>病院・診療所>産科・婦人科>都道府県 とたどっていくと、県別に産婦人科のサイトのリストが見られます。これを誤ってページ検索してしまうと、「産婦人科」という言葉を含んだページがすべてリストアップされますので、なんと13万5千件もヒットしてしまいます。産婦人科が作成したサイトも、産婦人科を報じた特集記事も、産婦人科に行ったという日記も、何もかもごちゃまぜにリストアップされてしまうのです。



サイト検索は、ヤフーに登録されているサイトの中から検索語に関連したサイトが表示されます。例えば、「母乳」という検索語をサイト検索すると、図2のように、母乳に関連した2つのカテゴリの中に、オケタニ母乳育児相談室やラ・レーチェ・リーグ日本など母乳に関連したサイトが66件リストアップされています。



ページ検索は、ロボット型全文検索サービス（Google）で蓄積されたデータによってサイトの1ページ1ページの中から検索語を含むページが表示されます。例えば、ベビーフレンドリーホスピタルについて調べたい、という場合には、この検索語を含むページを検索するのが適当です。実際に検索してみると、25件がヒットし、認定されている病院、これについて開催されたシンポジウムの内容などを見ることができます。さらに詳しく、日本ではどの機関が認定をおこなっているか調べたいときは、検索窓に「BFH 認定 日本」と入力して絞り込み検索をおこなってみましょう。スペースは「and 検索」を命令（この3つの語をともを含むページを検索せよ）することになります。こうして、日本では、日本母乳の会がユニセフから認定審査業務を委託されていることがわかりました。

ステップアップ編

1) リンク集を上手に使う

便利な情報はすでに他のサイトがリンク集として情報をとりまとめている場合があります。例えば保育園の体験記を閲覧したいとします。検索結果のサイトを1つ1つ見ていくよりも、リンク集があったら便利でしょう。そのような場合は、ページ検索で検索窓に「保育園 体験記 リンク集」と入力するとほしいリンク集が手に入ります。

その他、既存のリンク集サイト All About Japan (<http://allabout.co.jp/children/>) などを使うのもよいでしょう。

2) サイト内検索を上手に使う

例えば厚生労働省が発表したダイオキシンと母乳の関連に関する資料を探している、と

いうところまで明確な場合は、厚生労働省のサイトの中で検索をすることが有用です。当該サイトの「情報検索」のアイコンをクリックし、検索語に「ダイオキシン」「母乳」「報道」と入力すると容易に情報にアクセスすることができます。

3) 海外の検索サイトを使う

ここまでは日本のサイトの中から検索することを念頭に置いていましたが、海外のサイトに関して検索する場合は、各国のヤフー(ヤフートップページの下方に掲載されています)全文検索エンジン altavista (<http://www.altavista.com/>) などを使うとよいでしょう。waterbirth、birthcenter、などあなたの気になるキーワードを英語で入力してみると、「コンピューター前留学」の気分が味わえるだけでなく、雑誌がオンラインで読めたり、楽しいことがたくさんありますよ。

4 書籍検索と所在確認

(1) オンライン書店

生の情報をインターネットで探すのではなく、それについて書かれた書籍を探すという場合もあるでしょう。著者はわかっているが書名がわからない、値段を見てから注文したい、目次などを見て見当をつけてから注文したい、そんなことはありませんか? 最近身近になったオンライン書店(例えば アマゾンの日本版 <http://www.amazon.co.jp/>、紀伊国屋書店 <http://bookweb.kinokuniya.co.jp/>、クロネコヤマトのブックサービス <http://market.bookservice.co.jp/top/books/index3.html> など。オンライン書店の横断検索をするには <http://www.books.or.jp/>が便利)では、著者名、タイトルのキーワード、本のジャンル、出版社名などから書籍の検索をすることができます。また、本の表紙やオビ、目次、著者紹介なども掲載していたり、在庫状況がわかったりと、単に検索するだけでなくプラスアルファの便利さがあります。地方小出版社、自費出版の書籍を検索するサイトはまた別にあります。

海外のオンライン書店ではアメリカの本家アマゾン (<http://www.amazon.com/>)、barnesandnoble (<http://www.barnesandnoble.com/>) があります。

(2) オンライン古書店

amazon.com や barnesandnoble では、古書、絶版本が検索・入手できるのも大きな魅力です。日本でも、オンラインで古書の検索・入手ができるサイトがあります。便利なのは、古書店が個々に開設しているサイトの情報を巡回して一度に検索してくれる検索エンジンです(これを横断検索といいます)。横断検索も含め、古書の著者名、書名、価格などが検索できるサイトには、oldbookmark (<http://www.crypto.ne.jp/oldbookmark/>)、jcross (<http://www.jcross.com/usedbkcrs/usedbksite.html>)、日本の古本屋 (<http://www.kosho.or.jp/>) などがあります。インターネットを使って書籍情報を手に入れて、情報そのものは書籍から得る、そんな方法もあるのです。

(3) 出版社のサイト

出版社が自社の書籍を紹介していたり、検索できたりする場合があります。医学書院のHP (<http://www.igaku-shoin.co.jp/>) でももちろん書籍検索が可能です。出版社のHPの

利点は、雑誌に掲載されている論文水準の情報もわかる場合が多いということです。この助産雑誌もバックナンバーの個々の記事タイトルを見ることができますし、雑誌のバックナンバーが買えます。

(4) 書籍の所在確認

探している資料を図書館で借りることがあらかじめ想定されている場合は、オンラインで図書の所在を確認することが有用です。全国の公共図書館のリンク集 (<http://www.jla.or.jp/link/public.html>) に収録されている図書館で、インターネットで蔵書検索ができるものがあります。登録されている大学図書館の蔵書から書籍・雑誌の所在を確認するには Webcat (<http://webcat.nii.ac.jp/>) が便利です。国立国会図書館の蔵書確認は当図書館サイト (<http://www.ndl.go.jp/>) でできます。国立国会図書館内の雑誌記事索引は ndl-opac (<http://opac.ndl.go.jp/>) で可能です。より詳しい検索や、近くの図書館への移送サービス、紹介状の発行などは最寄りの図書館のレファレンスサービスを利用するとよいでしょう。

ステップアップのために

1) より専門的な論文検索

M E D L I N E の詳細は既に前稿で述べられていますので、省略します。その他、日本の論文に関する情報検索サービス NACSIS-IR (<http://www.nii.ac.jp/ir/ir-j.html>) には、臨床症例データベース、雑誌記事索引データベース、学会発表データベース、目録所在情報データベース、Science Citation Index Expanded など多様なデータベースが格納されています(有料)。

2) 海外の図書館情報

アメリカの国会図書館 (<http://www.loc.gov/>) ホームページでは、これから出版される本も収録されています。世界の登録図書館の蔵書目録を横断的に検索するサイト (<http://sunsite.berkeley.edu/Libweb/>) もあります。

5 新聞記事検索

見逃した新聞記事があった、購読していない新聞社の記事で気になるものがある、ということもありますね。そんなときにもインターネットは大活躍です。その日の新聞記事の多くは、各新聞社のホームページで閲覧できます。多くの場合、サイト内検索機能を持っていますので、検索も容易です。中には、有料記事検索サービスをおこなっていて、過去の新聞や関連週月刊誌、地方版の記事も含めて記事を検索し本文を閲覧できる新聞社もあります(例えば朝日新聞社: 有料、毎日新聞社: 2年以内記事無料、読売新聞社: 一部無料、西日本新聞社: 無料、など。海外の新聞にも無料、有料で検索ができるものが多くあります)。

6 辞典的機能をもったサイト

キーワードで検索をして調べものをするのもいいのですが、ともするとうまく情報を得

られなかったり、ネットサーフィンに時間を費やしてしまったりしがちです。用語の検索程度なら、使い勝手のよい辞典的・辞書的機能をもったサイトをいくつか知っておくと便利です。例えば、医学略語辞典 (<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~ent/abbreviations/>)、薬物の添付文書が全文掲載されている医薬品情報提供システム (<http://www.pharmasys.gr.jp/>)、ツムラの医薬用・一般用漢方製剤索引 (<http://www.tsumura.co.jp/kampo/index.htm>)、so-net が提供している最新医学大事典検索サービス：有料 (<http://www.ishiyaku.co.jp/onlinedic/jiten01.html>)、同じく so-net 提供の医学書院「治療薬マニュアル」検索サービス：有料 (<http://www.so-net.ne.jp/medipro/igak/03emd/chiryuu.htm>)、プロバイダ内の有料サービス (例えばニフティは平凡社の世界大百科事典、現代用語事典、世界大百科事典、漢字源、その他語学事典を有料で提供している。これらをネットで検索する利点は、書籍での操作と異なり、逆引きや全文検索が可能なことである) もある。

ここまで、一般にインターネットで検索として使われるカテゴリ検索、サイト検索、ページ検索の他、書籍・雑誌検索、それらの所在検索、古書検索、新聞記事検索、辞典機能のサイトを紹介した。やみくもにキーワードを入力して、いつまでたってもほしい情報が見つからない、あるいはいつの間にかネットサーフィンで時間を無駄にした (楽しみで波乗りするのは別として) そんな経験がある方は、どの検索方法を使うのか、自分が探している情報の種類、目的をもう一度明確にしてから検索技術を駆使するとよいと思う。情報リテラシーを高めて、助産の世界および助産師がエンパワーメントされるよう、応援しています。(6544 字、図 2 つ = 図で 800 字換算 所定のリミット文字数 8000 字)

i リテラシーは、3つの側面からなると考えられます。「情報リテラシー」つまり、情報ネットワークを活用して、情報を検索し、探しだし、取捨選択し、解釈し、活用する能力、「コンピュータ・リテラシー」つまり、情報機器の仕組みを理解し、操作する能力、「メディア・リテラシー」つまり社会・経済・政治的文脈でメディアの発信意図、メディアの構造を理解する能力、の3つです。この3つのリテラシーが高ければ、情報能力が高いといえます。